

令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
防府市立向島小学校	学級数：5学級 生徒数：26人

令和5年11月30日(木)	学年 第4～6学年	教科等 保健
---------------	-----------	--------

(題材名等)「がん」という病気について学ぼう

がん教育において取り扱う具体的な内容

<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生

使用教材等

- ・ 小学校版 がん教育プログラム 補助教材(文部科学省)
- ・ 映像資料:よくわかる!がんの授業(日本対がん協会)

授業(講演会)の内容(流れ)

- 1 事前アンケート結果をふり返りながら、「がん」という病気について基礎知識を学ぶ。
- 2 がんに関連したクイズをする。(日本の現状やがんの種類、定期検診の大切さ、リスクを減らす生活習慣、緩和ケアなど)
- 3 がんを経験された方の思いを聴く。
- 4 授業の振り返りをする。



外部講師との連携  
防府リボンの会 宿谷 三恵子 氏

成果と課題

(成果)

- ・がんという病気について詳しく知らない児童が多かったので、がんやがんを経験された方の思いを知り、知識を深めることが出来た。
- ・「喫煙」や「飲酒」など、自分のことだけではなく家族の健康についても考える機会となった。

(課題)

- ・今回は、学年を絞って学習を進めたが、他学年にも知識と理解を深める指導をしていく必要がある。
- ・教職員をはじめ、児童や保護者にも理解を深めてもらうには、継続的に「がん教育」を進めていく必要があると感じた。

<b>令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書</b>	
山口市立島地小学校	学級数： 3学級 児童数：20人

令和5年12月1日（金）	学年 第5学年	教科等 保健
（題材名等）あなたと大切な人の命のために がんについて学ぼう		
<p>がん教育において取り扱う具体的な内容</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは（がんの要因等）    <input type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過    <input type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況  <input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防    <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診    <input type="checkbox"/>カ がんの治療法  <input type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア    <input type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質    <input type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </p>		
<p>使用教材等</p> <p style="padding-left: 20px;">がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）</p> <p>授業の内容(流れ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講師紹介</li> <li>2 がんについて正しい知識を得る <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんに対するイメージ</li> <li>・がんの罹患割合</li> <li>・がんの原因・予防</li> <li>・検診・早期発見の重要性</li> <li>・山口県の検診受診状況と検診を拒否する人の特徴</li> </ul> </li> <li>3 児童同士で健康を守るために必要な行動を考え助言する</li> <li>4 まとめ</li> <li>5 振り返り</li> </ol>		
<p>外部講師との連携</p> <p style="padding-left: 20px;">山口県立総合医療センター がん看護専門看護師 山本 知美 氏 内田 恵 氏</p>		
<p>成果と課題</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんという病気について正しい理解をすることができた。</li> <li>・「がん」は治りにくいというイメージが児童の中にあっただけでも、早期発見をすれば95%は治るというイメージにつながり、早期発見・早期治療の大切さに気付くことができた。</li> <li>・実際に聴診器を使って「いのち」を感じることができたので、命を守るための検診の大切さに気付くことができた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間の学習にとどまることなく、学年に応じて継続的に指導ができればよいと考える。</li> <li>・「がん」については、中学校でも学習するため、小中連携のカリキュラムの編成を工夫していくことが今後の課題である。</li> </ul>		



令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
萩市立見島小中学校	学級数：4学級 児童生徒数：8人

令和5年9月25日（月）	中学部3年、小学部6年	教科等 体育
--------------	-------------	--------

（題材名等）がんがどのような病気か理解し、その発生要因を知ろう

がん教育において取り扱う具体的な内容

ア がんとは（がんの要因等）    イ がんの種類とその経過    ウ 我が国のがんの状況  
エ がんの予防    オ がんの早期発見、がん検診    カ がんの治療法  
キ がん治療における緩和ケア    ク がん患者の生活の質    ケ がん患者への理解と共生

使用教材等

- ・ 改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引（文部科学省）
- ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3

授業、講演会の内容(流れ)

授業（保健体育科）

- 1 がんについての知っていることやイメージについて話し合う。
- 2 配布資料から、がんがどのような病気か理解する。
- 3 がんが発生する原因が何かを考える。
- 4 自他の生活習慣とがんについて考える。
- 5 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。



講演会

- 1 がんになったときの様子や心境
- 2 治療時の想い
- 3 治療後の生活
- 4 質疑応答

外部講師との連携

元プロフットサル選手 中平雄介 氏

成果と課題

（成果）

- 中学生は2年時に学習をしているが、生活習慣とがんについて年代的に扱うことで深い学びとなったと考える。また、授業の中で、がんについてインターネットで検索して回答する生徒もいたが、それが正しい情報か判断することなど、情報リテラシーについても扱い、正しい知識を得ることについても指導できた。
- 講演では児童生徒と近い年齢で放射線治療を行った経験から、中学生は自分事として考えることができた。また、講師の、がんになっても夢に向かって努力する話から、精一杯生きることの大切さや、生活の質の向上の大切さを改めて考えることができた。

（課題）

- 今回は、講演前の授業も小中合同で実施した。授業で基礎的な知識、講演で命の大切さについて学習を行ったが、アンケートの結果を見ると、小学生のがんに関する知識の定着状況はあまりよくない。保健室前の掲示物などでがんについて扱ったが、場面を捉え、健康教育の一環としてがんについて触れていく必要がある。

令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
周南市立須々万中学校	学級数：7学級 生徒数：121人

令和5年11月30日(木)	学年 第2学年	教科等 保健体育
---------------	---------	----------

(題材名等) がん治療の現場から伝えたいこと

がん教育において取り扱う具体的な内容

<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法
<input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生

使用教材等 がん教育推進のための教材 補助教材(文部科学省)  
 ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、4

授業の内容

- 1 前回の保健の授業(モジュール1~5の内容)を振り返る。
- 2 がんの治療について知る。
- 3 がん患者の気持ち、がんになると起こる問題について考える。
- 4 がんはさまざまな専門家がチームを組んで治療することを理解する。
- 5 がん患者の手紙から患者の想いを知る。



※本時の学習の振り返りは宿題で提出。

外部講師との連携  
 徳山中央病院 がん薬物療法看護認定看護師 國次葉月 氏

成果と課題  
 (成果)

- ・ 教員でもがんの知識や日本の現状、予防や検診の大切さなどの授業を行うことはできるが、がん治療の実際やがん患者の思いなどは、日頃がん治療に携わっておられる看護師だからこそ生徒たちに伝えられる内容であった。
- ・ 医療従事者が、がん治療の現場の様子を話してくださることで、多くの専門家に支えられ、生活の質を保ちながらの治療も可能であることが理解できた。
- ・ 生徒たちも外部講師の授業ということで、いつもとはまた違う雰囲気の中、真剣に話を聞き、意見交換や発表の場では積極的に活動をすることができた。
- ・ がんに対する正しい理解、健康な生活を送るための行動意識が高まったことが、事前/事後アンケートの結果から読み取れた。

(課題)

- ・ がん教育が、発達段階に応じた系統的な学びとなるよう、小学校とも連携しカリキュラムを整えたい。

<b>令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書</b>		
宇部市立西岐波中学校	学級数：16学級	生徒数：450人

令和5年10月26日(木)	第2学年 4学級	教科等 保健体育									
(題材名等) がん患者と共に生きる社会											
<p>がん教育において取り扱う具体的な内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは(がんの要因等)</td> <td><input type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>カ がんの治療法</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生</td> </tr> </table>			<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況	<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法	<input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等)	<input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況									
<input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診	<input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法									
<input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア	<input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生									
<p>使用教材等 ・文部科学省 外部講師を活用したがん教育ガイドライン          ・中学校・高等学校版 がん教育プログラム補助教材 教師用指導参考資料          ・スライド教材モジュール6, 7, 8, 9</p> <p>がん教育の内容(流れ)</p> <p>第1時「がんの予防」(1学期に学習)</p> <p>①がんの発生と進行、予防について考える。          ②がんにかかるリスクを減らすための工夫についてまとめる。</p> <p>第2時「がんの治療と支援」</p> <p>①がんの治療法について知る。          ②がんの治療法を決めるときに大切なことは何か考える。          ③緩和ケアがあることで体や心の状態がどう変わるか考える。          ④がん患者やその家族への支援について学んだことをまとめる。</p> <p>第3時「がん患者と共に生きる社会」(外部講師活用公開授業)</p> <p>①外部講師の話から印象に残ったことを共有する。          ②身近な人ががんになったとき、自分にできることは何か考える。          ③がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会か考える。          ④外部講師の話やグループで話し合ったことを振り返り、大切だと思ったことをまとめる。</p>											
<p>外部講師との連携</p> <p style="text-align: center;">ポポメリー代表 藤本 育栄 氏</p>											
<p>成果と課題</p> <p>(成果) 外部講師を活用したことにより、がん体験者の思いを生徒が実感することができ、命の大切さを主体的に捉えることができた。また、がん教育を3時間で整理、構成したことにより、がん患者やその家族等への支援、がん患者と共生するための考え方についても深く学ぶことができた。公開授業を2クラス合同で行ったことで、意見の交流にも新たな発見や深まりがあった。(生徒の振り返りから)「がん患者が暮らしやすい社会にするためには、医療費の支援や制度を作るとよいと思いました。将来、身近にがんになった人がいたら相談にのるなどして、少しでも役に立てるようにしたいです。」</p> <p>(課題) 今回のがん教育は、保健体育科の学習を再構成したため、第2学年のみを対象に行った。健康教育という観点からがん教育を推進し、学校全体での実践が望ましいと考える。</p>											



令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
山陽小野田市立高千帆中学校	学級数：17 学級	生徒数：462 人

令和5年11月13日（月）	学年 第2学年	教科等 保健体育
---------------	---------	----------

（演題）「がんの基礎知識～正しい知識と行動で自分を守ろう～」


がん教育において取り扱う具体的な内容

<input checked="" type="checkbox"/> ア	がんとは（がんの要因等）	<input checked="" type="checkbox"/> イ	がんの種類とその経過	<input checked="" type="checkbox"/> ウ	我が国のがんの状況
<input checked="" type="checkbox"/> エ	がんの予防	<input checked="" type="checkbox"/> オ	がんの早期発見、がん検診	<input type="checkbox"/> カ	がんの治療法
<input checked="" type="checkbox"/> キ	がん治療における緩和ケア	<input type="checkbox"/> ク	がん患者の生活の質	<input checked="" type="checkbox"/> ケ	がん患者への理解と共生

使用教材等  
 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）  
 ・中学校・高等学校版 スライドモジュール2、7

講演会の内容(流れ)

- ・がんとは
- ・がんの原因について
- ・がんの現状について
- ・がんの種類について
- ・がん治療の支援について
- ・緩和ケアについて
- ・講師の実体験から思うこと、願うこと



外部講師との連携  
 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏

成果と課題  
 （成果）  
 ・保健体育の授業では3学期に扱う内容であったが、この講演を通じて、がんは特別な病気ではないことや早期発見、検診の重要性、支援する側の在り方などを学ぶ良い機会となった。  
 ・前向きにがんばろう。家族との会話を増やそう。という先生の体験談からのお話が、生徒の心に響いたようだった。アンケートの結果、「がんと健康について、身近な家族から語ろうと思う」という回答が増えた。

（課題）  
 ・保護者や地域の方も招いて講演会を開催することでさらに効果的な取組になると感じた。  
 ・事前、事後アンケートにおいて「実施不可」の生徒への対応に悩んだ。また、アンケートをタブレットで実施したため確実に回答したかどうかの確認が取れなかったため、事後アンケートの無回答生徒が増加してしまった。（無記名にしていたため追跡ができなかった）

令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
山口県立防府西高等学校	学級数： 12 学級 生徒数：420 人

令和5年11月15日(水)	学年 第3学年	教科等 LHR 活動
---------------	---------	------------


(演題) がんになって見えたもの～若年性乳がん体験者として

がん教育において取り扱う具体的な内容

ア がんとは(がんの要因等)    イ がんの種類とその経過    ウ 我が国のがんの状況  
エ がんの予防    オ がんの早期発見、がん検診    カ がんの治療法  
キ がん治療における緩和ケア    ク がん患者の生活の質    ケ がん患者への理解と共生

講演の内容：体育館にてプレゼンテーション

- 1 自己紹介を含めた現在の自分の活動の説明
- 2 乳がん罹患の経緯と現状
- 3 乳がんについての説明
- 4 がんの早期発見・早期治療の重要性  
山口県の検診の現状  
教材モジュール「日本のがんの現状」使用
- 5 がん罹患して自分に起こった考え方の変化と生き方の変容
- 6 周囲の人々と関係、とりまく環境の重要性  
教材モジュール「がん患者と共に生きる社会」使用
- 7 まとめ
- 8 事後アンケート実施(講演前に事前アンケートを実施)



外部講師との連携

井上裕香子 氏 (PinkRing 西日本 Branch 代表) に講演を依頼し、実施

感想と課題

生徒は、がんを身近な病気と捉え、病気の早期発見のため定期的な検診の重要性に気付くとともに、自身を取り巻く様々な境遇にある人々を理解し共に生きていくこと、他者を思いやる気持ちを深めるなど、大変貴重な学びの時間となった。

課題としては、今回、感染症の広まりから生徒教職員に限られた開催となった。従来のように保護者の方々にも案内し講演を聴く機会を広げていきたい。

令和5年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
山口県立美祢青嶺高等学校	学級数：12 学級 生徒数：191 人

令和5年10月11日（水）	学年 第3学年	教科等 LHR
---------------	---------	---------

（題材名等） 「がん教育講演会」

がん教育において取り扱う具体的な内容

ア がんとは（がんの要因等）    イ がんの種類とその経過    ウ 我が国のがんの状況  
エ がんの予防    オ がんの早期発見、がん検診    カ がんの治療法  
キ がん治療における緩和ケア    ク がん患者の生活の質    ケ がん患者への理解と共生

使用教材等

- がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）
  - ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール2、7
- 井岡先生オリジナルのスライド

授業（講演会）の内容(流れ)

- 1 がんの現状について知る。
- 2 がんの要因・種類について知る。
- 3 がんの早期発見・治療の重要性を理解する。
- 4 がんの予防について知る。
- 5 がん患者への理解と共生・緩和ケアを知る。
  - ・ がん患者はどんなことを考えているか。
  - ・ 周囲ができるサポートとは（家族を含む）
- 6 家族とがんの関係について



外部講師との連携（講演会）

山口大学医学部附属病院腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏

成果と課題

今回は、授業ではなく講演会という形での実施をお願いしたが、具体的事例や先生自身の経験談を交えながらわかりやすく説明していただき、がんに限らず、人とのかかわり方についても改めて考えさせられる貴重な時間となった。また、事前・事後のアンケート結果を比較しても、実施後にがんに対する認識の変化がみられ、効果的であったことが確認できている。

今後の課題としては、外部講師と連携したがん教育をいかに継続的に実施していくか、このような連携を他分野にも広げていくことが考えられる。